

# 山賀遺跡03-1



上：第6面全景(北東から)、下：第8面全景(南東から)



## 山賀遺跡 03-1 の概要

所在地：大阪府八尾市新家町5丁目

委託者：大阪府土木部八尾土木事務所

調査原因：寝屋川水系改良事業（一級河川寝屋川 新家調節池）

調査担当：財団法人大阪府文化財センター

調査面積：2846.2 m<sup>2</sup>

調査深度：現地表面から 4.6m (T.P.0.0m まで)

山賀遺跡は、大阪府東大阪市若江西新町～八尾市新家町・山賀町など、南北約 1 km、東西約 0.8 km の範囲に広がります。1971 年楠根川改修工事の際に発見され、その後、東大阪市立若江中学校や近畿自動車道などの建設に伴う多くの発掘調査が行われました。各時期の遺構面が調査されましたが、とくに弥生時代の集落遺跡に関する遺構・遺物が豊富です。

今回の山賀遺跡 03-1 では、3 区に分割して発掘調査しています。

昨 2004 年 6～10 月に調査した 1 区 (307 m<sup>2</sup>) では、古墳時代後期の洪水砂層の上・下面 (第 2・3 面)、弥生時代後半の面 (第 4・5 面)、弥生時代前期末～中期初頭の面 (第 6～10 面)、弥生時代前期のヨシ原と考えられる面 (第 12・13 面) など 13 の面を調査しました。土器、石器、木製品などの遺物も多く出土しました。

今回公開する 2 区 (2272 m<sup>2</sup>) も基本的に同様ですが、とくに弥生時代前期末～中期初頭の溝群が平行して西南西～東北東にはしる景観が卓越しています。これらの溝は、水田への用水を目的として掘られた水路と考えられます。

なかでも 252 大溝は幅 8～10m、深さ 2 m 以上と規模の大きい溝です。これを埋めた砂層の流れは強く、両岸を侵食しています。砂層からは完形の土器や碧玉質管玉が、また砂層下部の礫層からは土器に加え、石小刀や多くの石鏃も出土しています。252 大溝の北側には盛土による堤が築かれており、その層中には土坑やピットの掘り込みがみられます。これにより、砂で溝が埋まるたびに溝を掘り直し、さらに堤を盛り上げていった様子がうかがえます。252 大溝の底



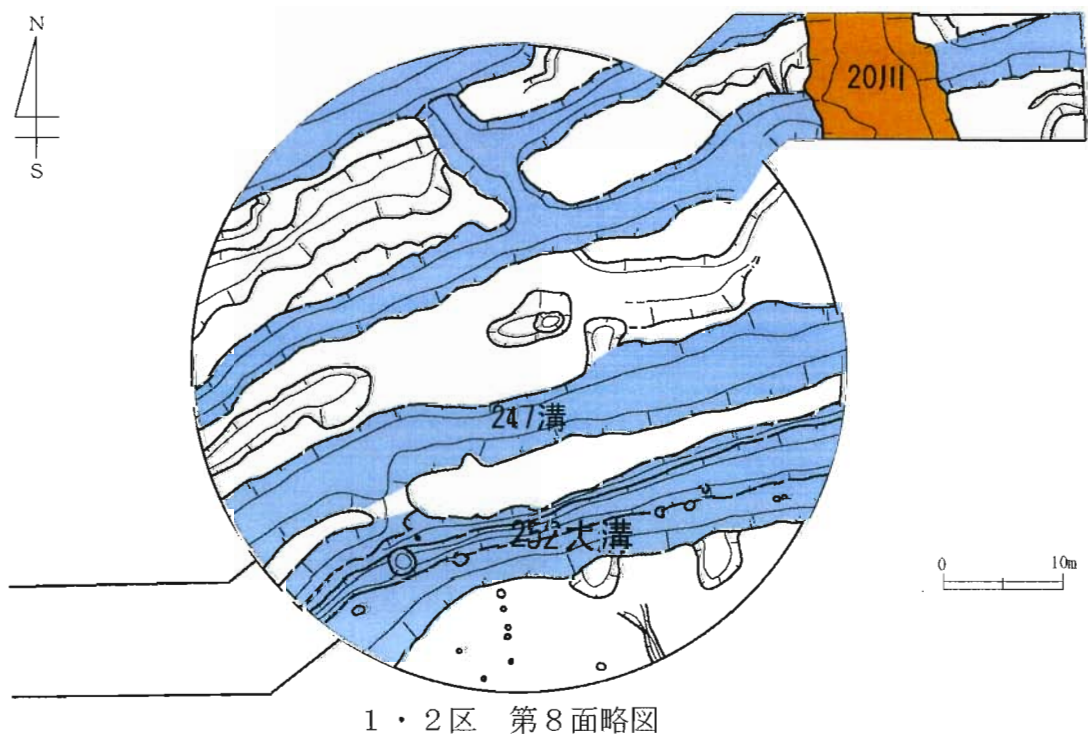
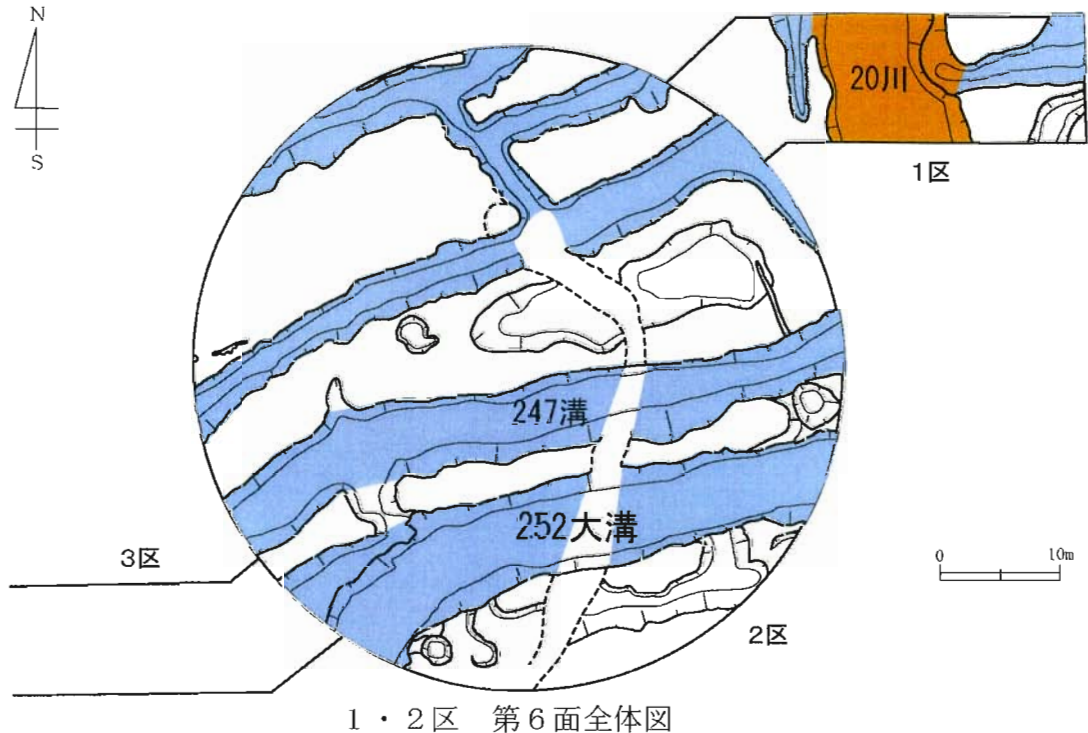
山賀遺跡位置図

には、黒色土層があり、その中からは多くの土器に加え、イノシシの牙製腕輪、木製高杯、イノシシなどの骨も出土しました。

一方、調査区北側の溝群は、252大溝に比べると浅めで、流路を埋めているのもシルトや細砂といった粒子の細かい土です。

3区(267㎡)でも調査を開始し、現在は弥生時代後半の第4面を検出中です。

今回の調査からは、洪水を受けやすい沖積地における溝の維持の難しさと、それを再生させた弥生人の努力の跡をうかがうことができます。







弥生土器 壺  
第6面 252大溝出土



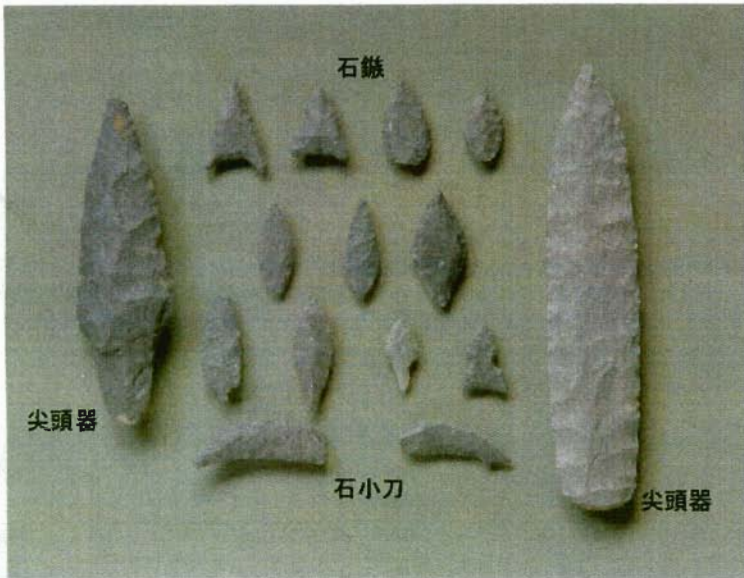
弥生土器 甕  
第7面 270落ち込み出土



木製高杯の脚部  
第6面 252大溝出土



イノシシの牙製の腕輪  
第8面 252大溝下層出土



石鏃  
尖頭器  
石小刀  
尖頭器

打製石器  
第4~6面各遺構出土



獣骨  
第8面 252大溝下層出土

山賀遺跡出土遺物